

平成20年11月25日
教育委員会

盛岡市歴史文化施設整備事業について

(平成20年11月17日現在)

歴史文化施設整備事業の概要

1 目的

旧岩手県立図書館建物を活用し、市民や観光客、修学旅行生など様々な人々が盛岡の歴史や伝統文化に楽しみながら触れることができ、町なか観光の拠点施設として新たな賑わいを創出する集客力のある施設を整備するもの。

- 公園(盛岡城跡)隣接地で、南部家資料をはじめとする歴史資料等の展示や、盛岡の暮らし文化・年中行事等を紹介し、盛岡の歴史や伝統文化を身近に見学・学習・交流できる拠点施設。
- 市民、観光客、修学旅行生など様々な層を対象とするもの。
- 「町あるき」の拠点であるとともに、歴史・文化資源を活用した情報発信等による「町なか観光」の拠点機能を有する。
- 中心市街地の活性化に寄与する。

2 経過

- 平成11年、「盛岡市博物館等施設整備基本構想検討懇談会」を発足。14年2月、市長に提言書を提出。15年1月、懇談会を発展させた「盛岡市博物館施設整備基本計画策定委員会」を発足。
- 平成16年4月、知事と市長の懇談において、市が県立図書館建物を博物館等の施設として活用することの方向性が出され、同年9月、建物の調査・検討・分析を行ない、利便性・活用面から県立図書館建物を候補とした。
- 施設整備基本計画は、14年に提出された提言書や、基本計画策定委員会(～17年11月)での意見、17年度に委託事業で策定した基本計画(案)を踏まえ、18年度においてさらに調整・検討を進め、同年11月に議員全員協議会で説明し、パブリックコメントを実施。19年1月、旧県立図書館建物を活用した施設整備基本計画を取りまとめた。
- また、18年度は、建築基本設計の作成を業務委託した。
- 平成19年度は、展示基本設計、建築実施設計、図書館管理用地の測量、不動産鑑定業務等を実施した。

3 計画規模等

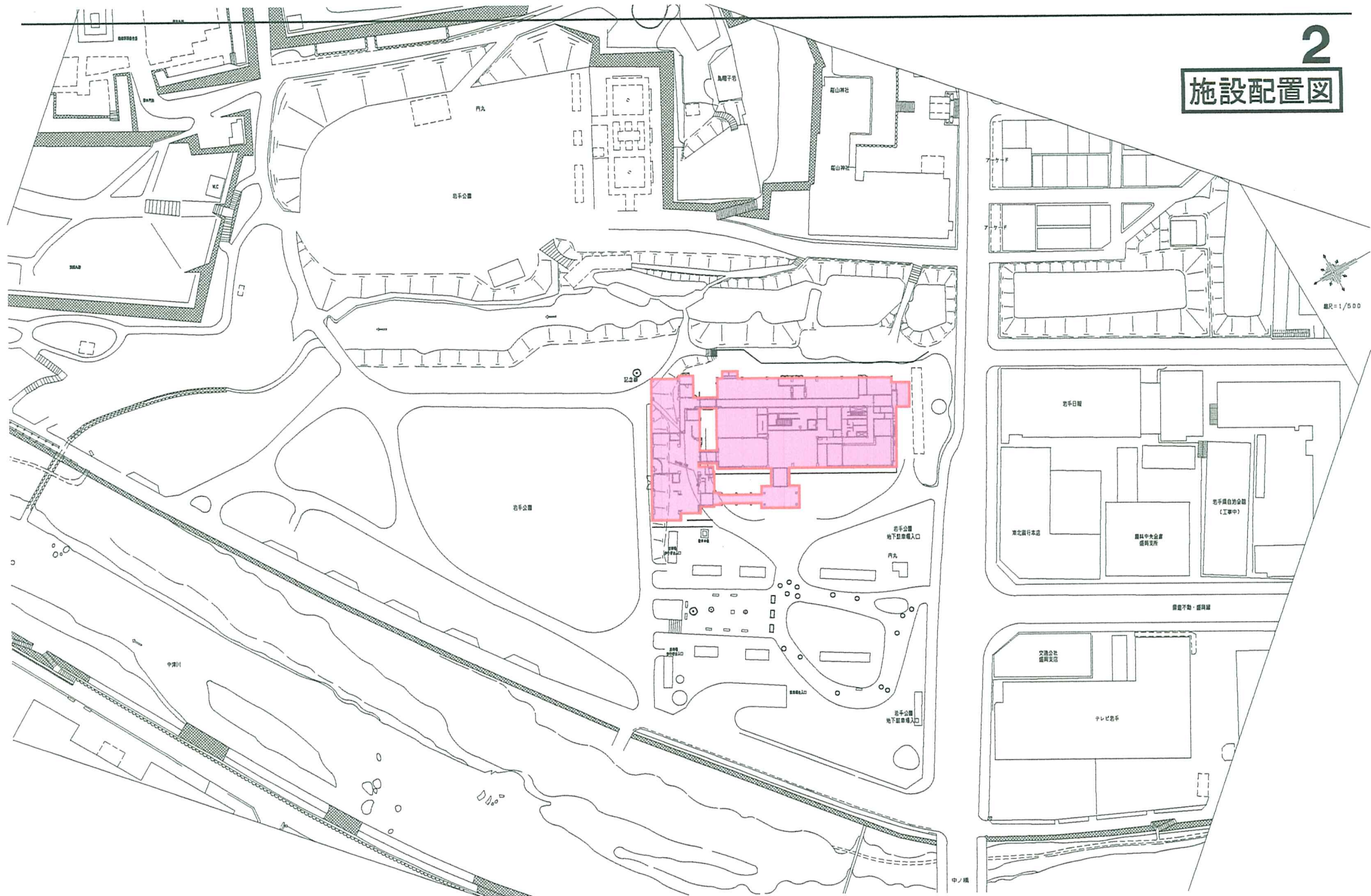
計画地	盛岡市内丸(旧県立図書館建物管理用地)
整備方法	旧県立図書館建物の改修及び増築棟新築による
計画規模	敷地面積 6,012.51㎡(建築確認申請時) 建築面積 2,534.12㎡ 構造 鉄筋コンクリート造 延べ面積 4,662.94㎡ (既存建物3,458.07㎡ 地上2階 地下1階 増築棟 1,204.87㎡ 地上2階)
	<参考>既存建物の状況 延べ面積 3,658.87㎡ 地階 501.89㎡ 1階 1,481.21㎡ 2階 1,481.40㎡ 中3階194.37㎡ 構造 鉄筋コンクリート造 建築年月 昭和43年2月開館
開館年度	平成23年度

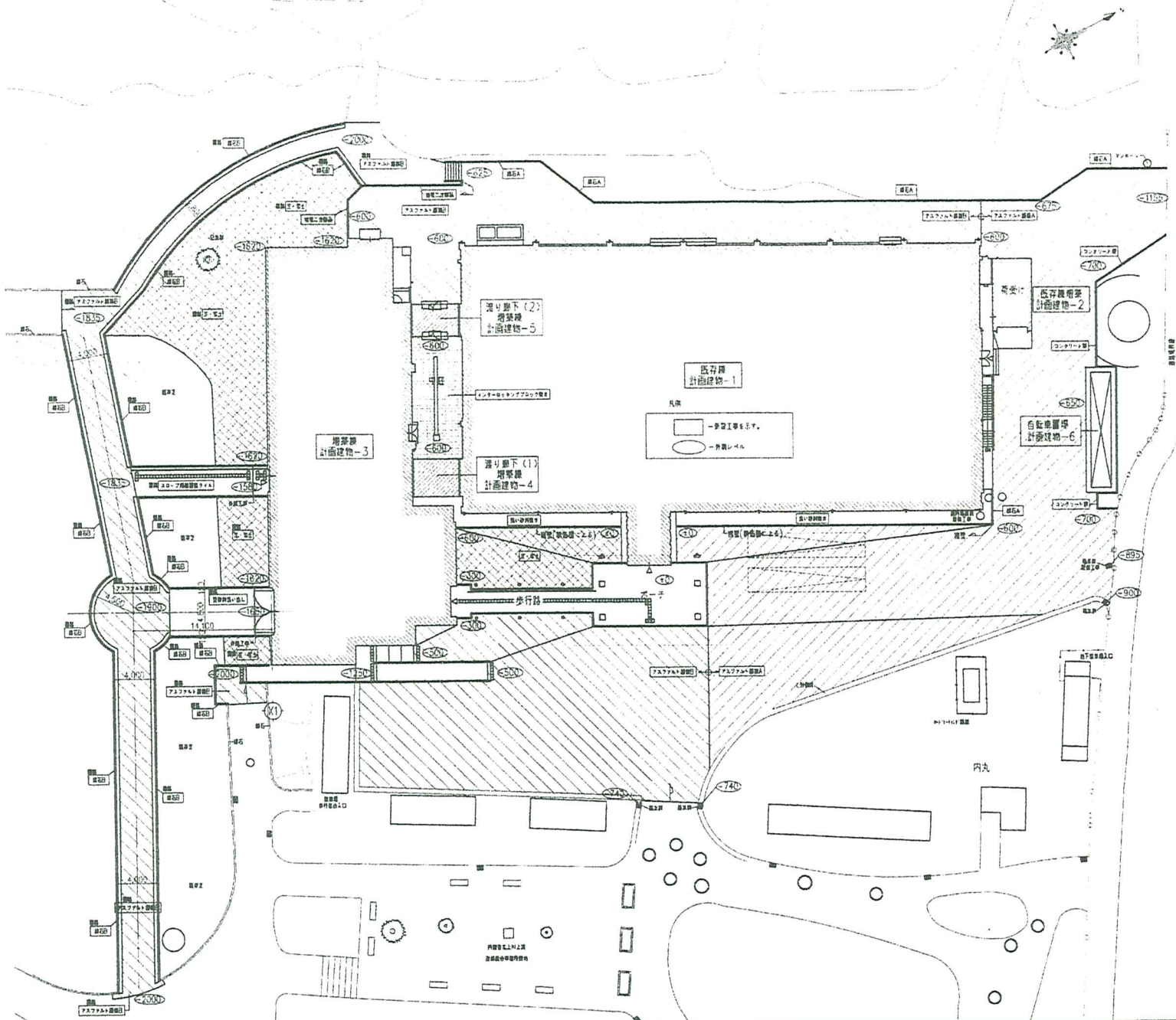
19億円(35割ほど交付金 5億6千円)

4 年次計画

平成18年度	建築基本設計
平成19年度	建築実施設計 展示基本設計 地質調査
平成20年度	建築工事(～H21) 展示実施設計 情報システム仕様作成業務
平成21年度	建築工事(H20からの継続) 展示製作委託(～H22) 情報システム製作・試験運用等(～H22)
平成22年度	市道拡幅工事 展示製作委託(H21からの継続) 情報システム製作・試験運用等(H21からの継続)
平成23年度	資料等搬入 開館

施設配置図





外構工事

項目	内容	数量
アスファルト舗装	外構舗装-1	371m ²
アスファルト舗装	外構舗装-1	642m ²
植込	外構植込-1	77.6m
芝生・草	外構芝草-1	95.0m ²
芝生	芝生・樹林地上成層土	12m ³
芝生	外構芝草-1	59.0m ²
芝生	外構芝草-1	8.0m ²
芝生	外構芝草-1	7.7m ²
芝生	外構芝草-1	32.3m
芝生	外構芝草-1	1m
芝生	外構芝草-4	22.0m
芝生	外構芝草-3	1m

園路付まわし工事

項目	内容	数量
アスファルト舗装	外構舗装-1	335m ²
植込	外構植込-1	173m
芝生	芝生 200H	371m ²
芝生	芝生 60mH	60m ²
芝生	外構芝草-2	1m
芝生	外構芝草-2	1m

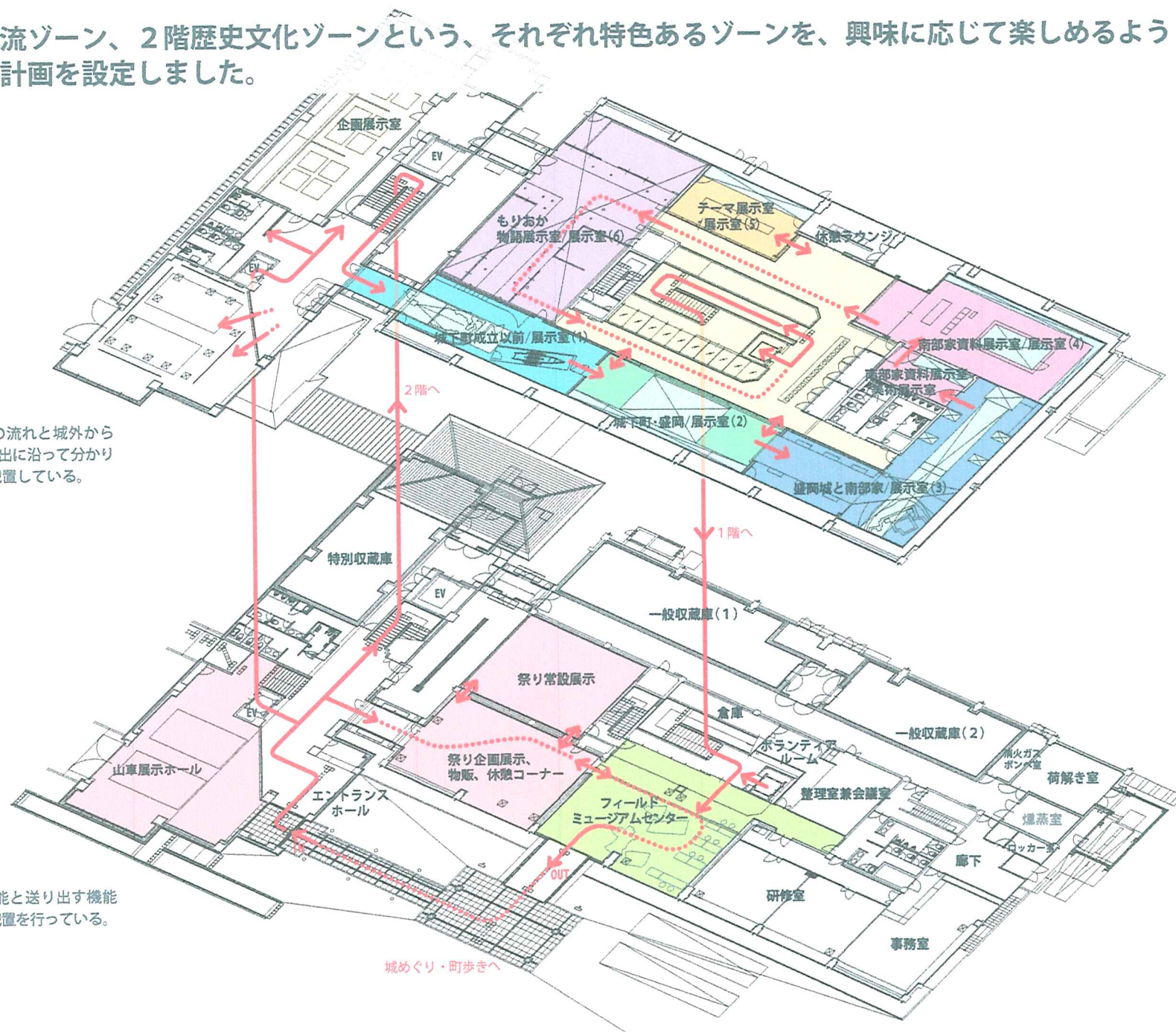
1階観光交流ゾーン、2階歴史文化ゾーンという、それぞれ特色あるゾーンを、興味に応じて楽しめるよう明確な動線計画を設定しました。

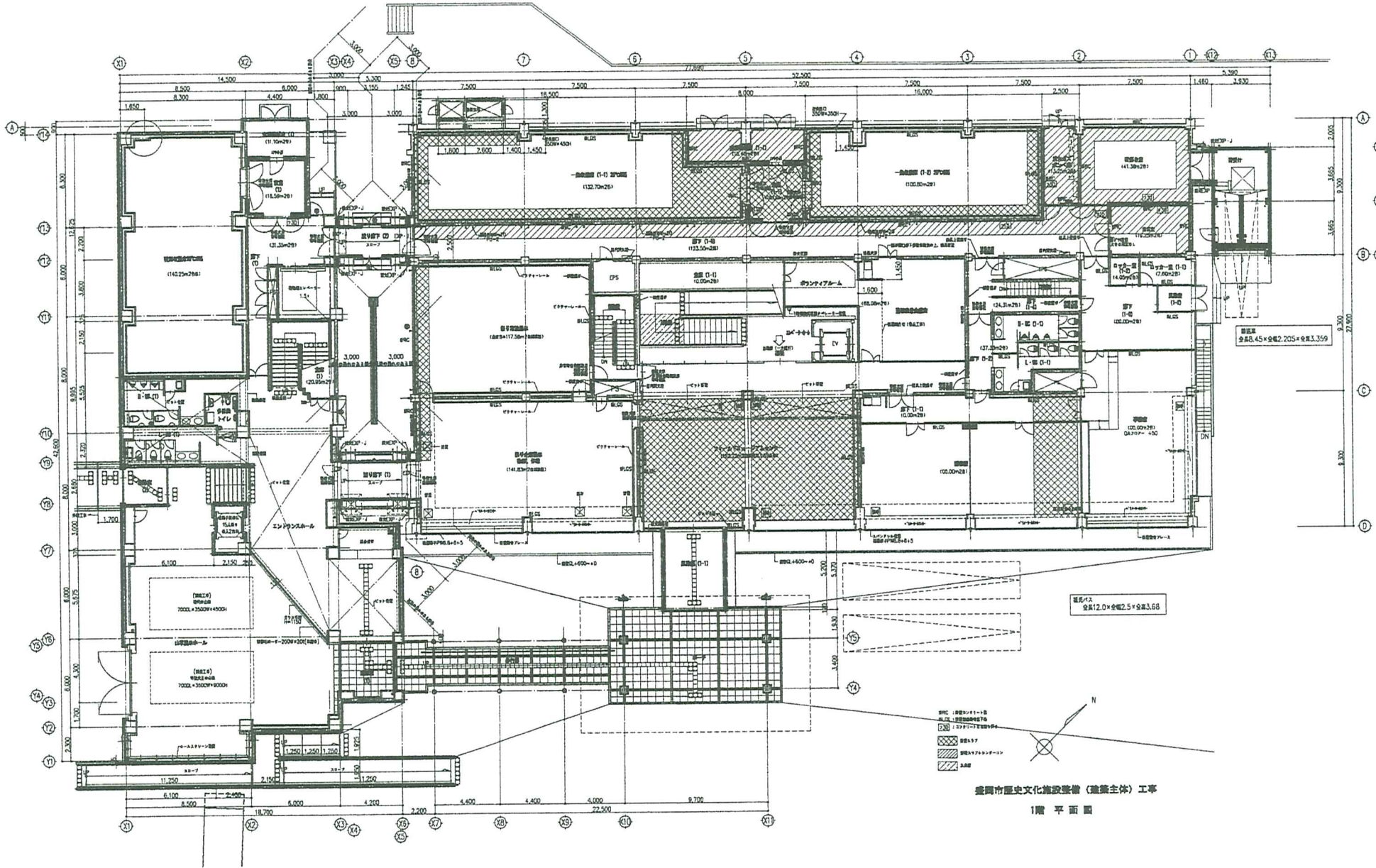
< 2F動線の特徴 >

ゆるやかな時間軸の流れと城外から城内へと巡る空間演出に沿って分かりやすく各展示室を配置している。

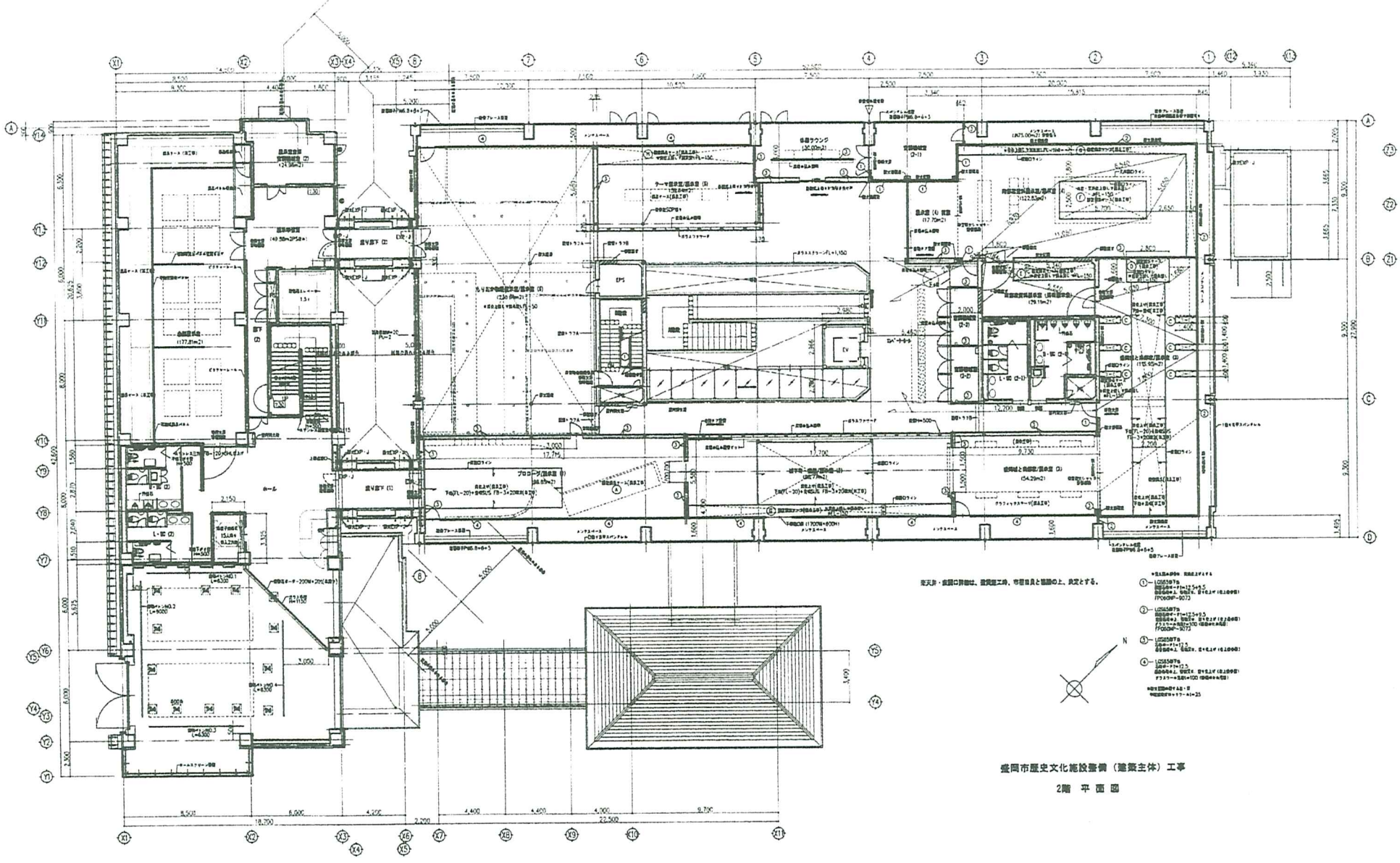
< 1F動線の特徴 >

来館者を迎える機能と送り出す機能を両立させる階室配置を行っている。





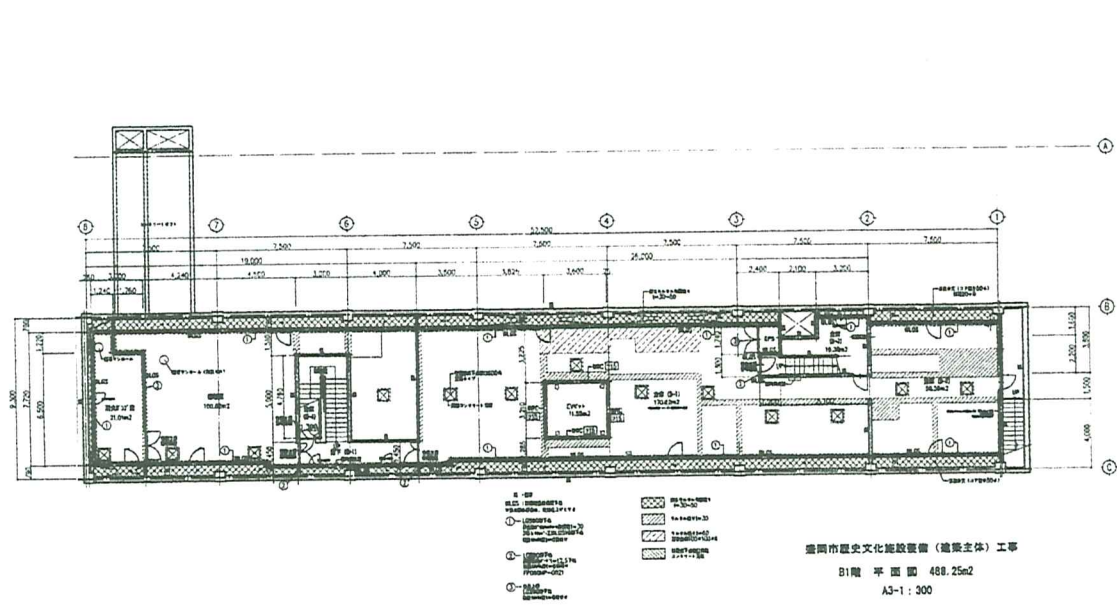
島根市歴史文化施設整備（建築主体）工事
1階平面図

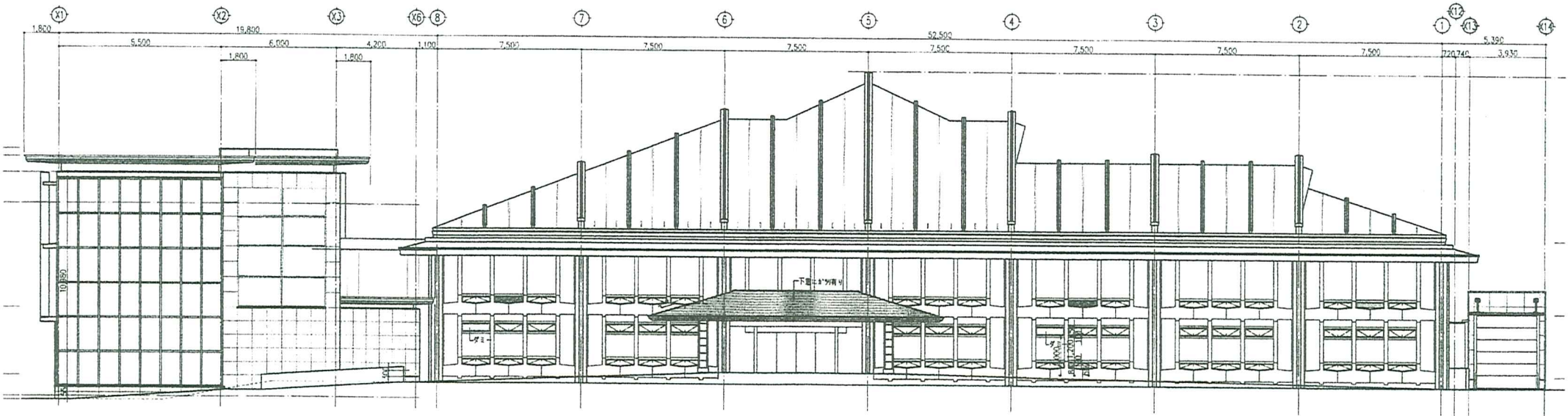
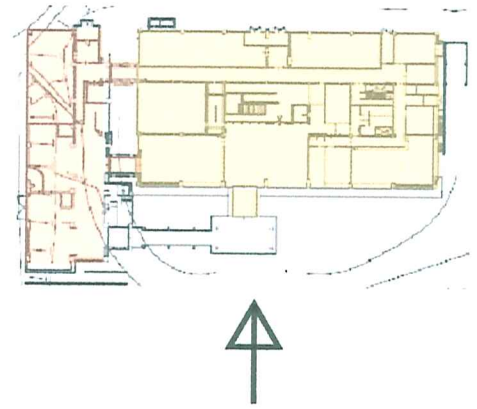


窓天井・換気口詳細は、図例図工時、作図員と協議の上、決定とする。

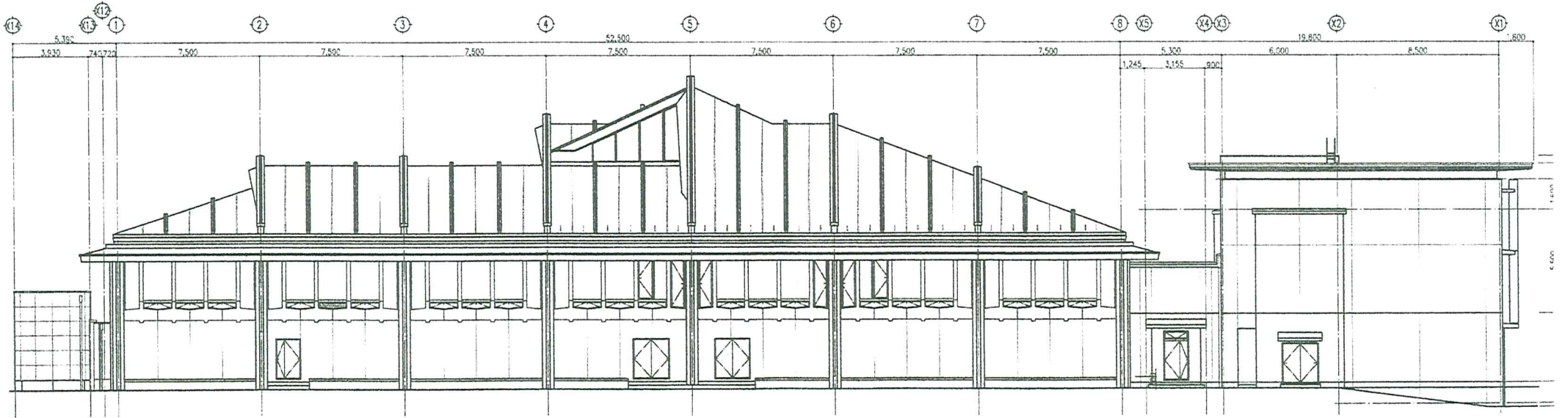
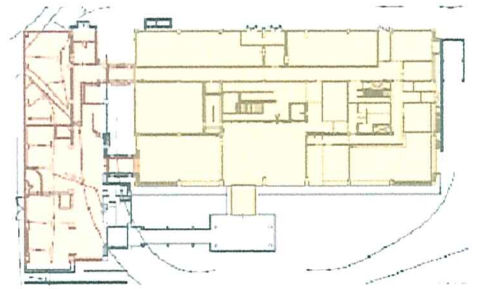
- ① 窓天井
構造種別=FR-12+2
躯体=鋼鉄 50kg/m² (11.00kg/m²)
FR000P-0073
- ② 窓天井
構造種別=FR-12+3
躯体=鋼鉄 50kg/m² (11.00kg/m²)
FR000P-0073
- ③ 窓天井
構造種別=FR-17
躯体=鋼鉄 50kg/m² (11.00kg/m²)
FR000P-0073
- ④ 窓天井
構造種別=FR-17
躯体=鋼鉄 50kg/m² (11.00kg/m²)
FR000P-0073
- 窓天井
構造種別=FR-17
躯体=鋼鉄 50kg/m² (11.00kg/m²)
FR000P-0073

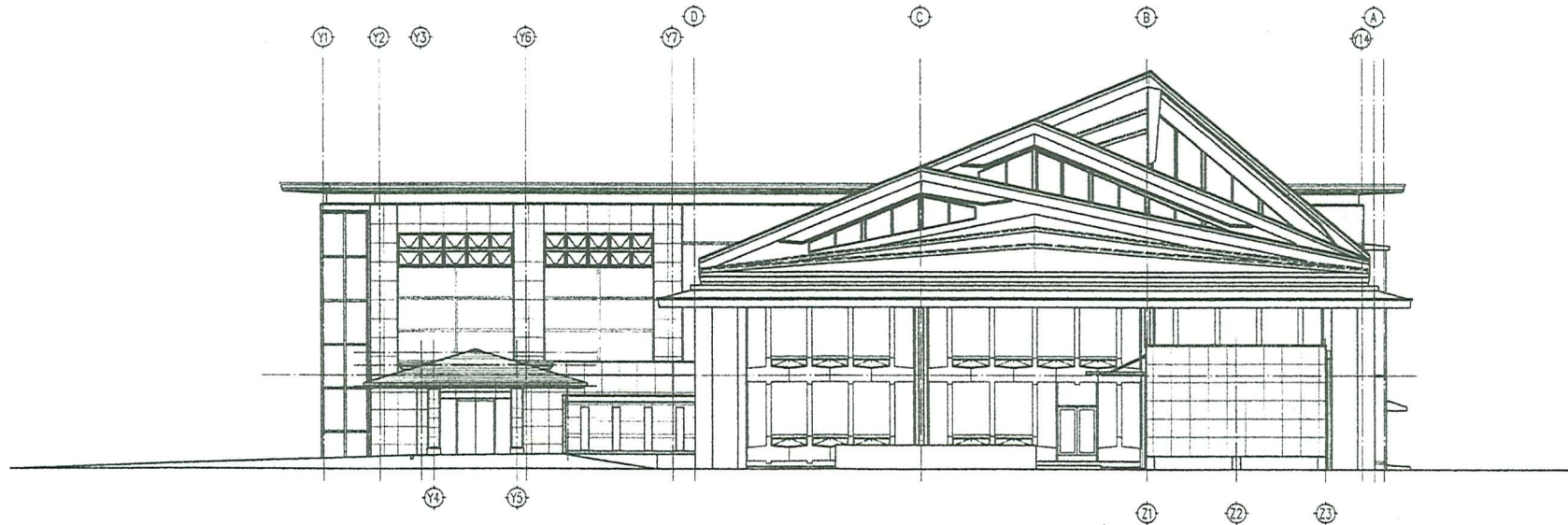
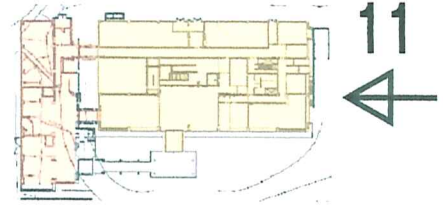
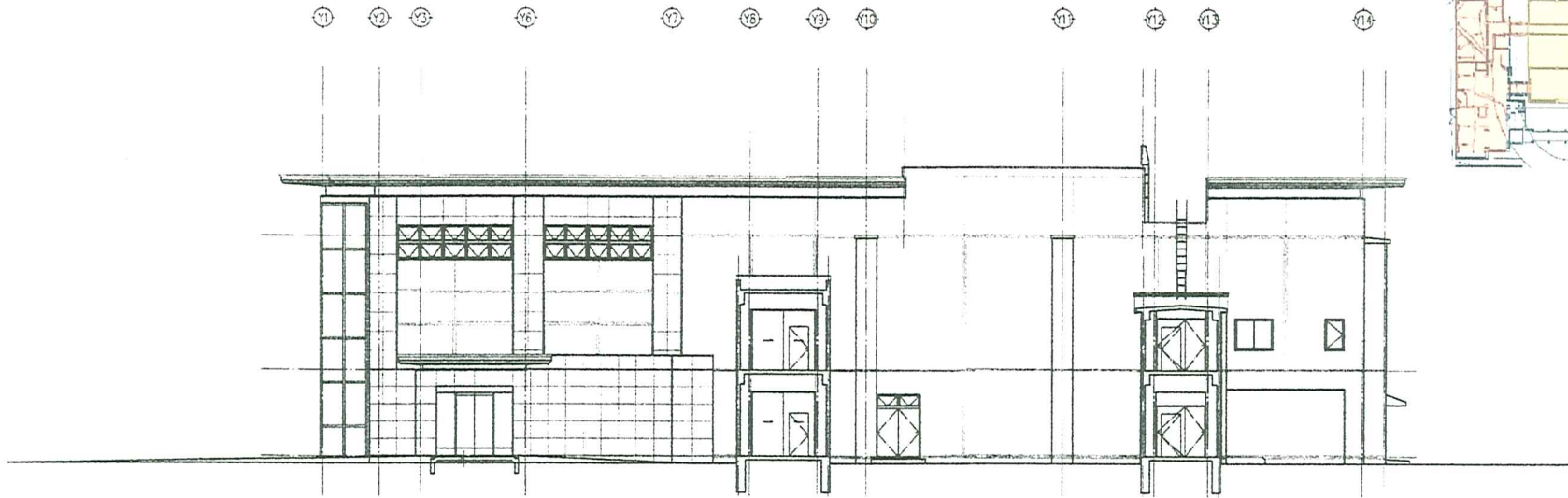
盛岡市歴史文化施設整備費（建築主体）工事
2階 平面図






<p>KUJI ARCHITECTS STUDIO 株式会社 久慈設計 盛岡県盛岡市青蓮寺2番11号 TEL.019-424-2020</p>	<p>一級建築士事務所 法人番号(特)149 一級建築士登録 第322339号 小川 博</p>	<p>業種 管理 種類 計画 用途 建築</p>	<p>設計番号 設計月日 設計所 07101</p>	<p>業務番号 工事名称 07101 盛岡市歴史文化施設整備(建築主体)工事</p>
	<p>図面内容 増築</p>	<p>図名 南側立面図</p>	<p>縮尺 1:100</p>	<p>図番 000</p>





 <p>株式会社 久慈設計 盛岡県盛岡市盛岡11号 TEL.019-624-2220</p>	一級建築士事務所 建築士(乙) 5号 一般建築士会 第38330号 外川 徹	承認 認定 建築 設計 監理	建築士 事務所 建築士 事務所 建築士 事務所	建築士 事務所 建築士 事務所 建築士 事務所	建築士 事務所 建築士 事務所 建築士 事務所	建築士 事務所 建築士 事務所 建築士 事務所	07101 盛岡市歴史文化施設整備(建築主体)工事 増設部 東側立面図	1:100 000	000 000
	07101 盛岡市歴史文化施設整備(建築主体)工事 増設部 東側立面図	1:100 000	000 000						

盛岡市歴史文化施設 展示設計

(平成20年11月17日現在)

本設計は、「盛岡市歴史文化施設整備基本計画」(平成19年1月)及び「盛岡市歴史文化施設展示基本設計」(平成20年3月)にうたわれた基本コンセプトに基づき作成したものです。

本施設建設予定地及び周辺環境の特色

- ・盛岡の歴史の中心地としての時を刻んで来た盛岡城跡に隣接している
- ・日本の都市公園100選にも数えられる盛岡城跡公園の中にあり、四季折々の花々やイベントに市民が集う憩いと交流の場である
- ・周辺には今も城下町としての構造が残り、豪商、寺社などのたたずまいを通して城下町の雰囲気を感じられる

こうした環境を活かした整備を進めることで、歴史文化施設としての機能を発揮することが期待されており、その実現にあたっては、都市・盛岡のルーツを探るとともに、21世紀のまちづくりへとつなげられるよう、以下のコンセプトを掲げています。

基本コンセプト

もりおか・城と城下町フィールドミュージアム

— 都市・盛岡のルーツを探り、21世紀のまちづくりへつなげる拠点施設 —

展示実施設計にあたっては、上記のコンセプトを踏まえ、歴史文化施設を中心に盛岡城跡と城下町(中心市街地)へ、さらにはより広い地域へと広がるミュージアムづくり、活動展開を目指します。その視点として以下のような点に留意した施設展開を考えます。

歴史的・文化的背景を活かした都市型施設としての整備

これからの施設は、自らの時間を豊かに過ごすとする市民のニーズに応える施設であることが重要な要素となります。

都市・盛岡の歴史文化の中心地に整備する歴史文化施設は、歴史的環境を活かした学びの場としての魅力とともに、飲食物販スペースや交流スペースといったサービス施設の充実、個性ある活動など、施設の開放性とともに魅力あふれる都市型施設として整備を進めます。

施設整備においてもこれを意識し、歴史を学び継承できるとともに、豊かな時間を過ごす場、さまざまな市民活動や交流の場として活用されるよう努めます。

「最大の展示物」である盛岡城跡と一体化した運用で新たな観光スポットとしての活性化を図る

近世盛岡藩の中心という歴史的な意味合いとともに盛岡発祥の地として、盛岡城跡のシンボル性を最大限に活かし、城跡を「最大の展示物」としてとらえます。積極的に展示や事業に組み込むことで、歴史文化施設と一体化した展開を図ることを目指します。

歴史文化施設から城跡へ、さらに城下町エリアへと、一体感と広がりを持たせた活動展開を想定し、中心施設を起点に人が集い、動き、周遊する、「歴史文化施設」と「城」と「城下町」が幾重にも相乗効果を発揮すること、盛岡城跡をさらに魅力的な観光スポットとして活性化することを旨とした展示展開を追求していきます。

歴史の足跡が残る中心市街地を「城下町フィールドミュージアム」として整備

城下町として築かれた町割りを基礎に、重層的な時代の息吹が感じられる「町すじ」「町かど」「歴史的景観」などの盛岡の都市構造や中津川流域、旧奥州街道筋の町並みなど、歴史文化施設を中心に広がる周辺城下町エリアをフィールドミュージアムの「屋外展示」として位置付け、21世紀のまちづくりへと連動させることを目指します。

歴史文化施設から城下町エリアへの広がりを活動のあらゆる面で意識し、中心市街地の活性化を目指します。市の中心に位置する城下町エリアを活性化させることで、広域圏を含め、市全体が活性化することが期待されます。歴史文化施設はその拠点として重要な役割を果たします。展示においてもこうした点を意識した展開を図ります。

展示の全体コンセプト

基本計画では、都市・盛岡そのものを題材として、そこに刻まれた「歴史」を読み解き、現代の盛岡と全ての展示は城と城下町に繋がっていることを明らかにすることを目指しています。

その実現にあたっては、様々な興味や関心などに応じて盛岡のルーツを探ることができるよう、1階の「文化観光交流ゾーン」と2階の「歴史文化展示ゾーン」の2つを設定しました。「文化観光交流ゾーン」では、集客観光を大きなねらいとしつつ盛岡を知る楽しさを提供し、「歴史文化展示ゾーン」は4つの展示（「南部家資料展示」「歴史文化展示」「常設テーマ展示」「企画展示」）によって、盛岡らしさを紐解いていきます。

展示設計にあたっては、それらをより具体的に検討した結果、1階の「文化観光交流ゾーン」では中心市街地や盛岡の「祭り」との連携を重視し、2階の「歴史文化展示ゾーン」では南部家資料を中心に歴史ドラマを感じる展示の実現を目指すこととします。

■基本コンセプト

1階は主として現在と未来を対象とし、2階は過去の歴史を対象として、1階と2階の展示を通じて随所に「都市と城下町」「城と城下町」のつながりを示します。

1階では、盛岡らしい「おもてなしの心」や祭り展示などの実現によって、「盛岡ならではの魅力に会おう！」場所であり、外部と連携する拠点として整備します。

2階では、城下町出現の背景、城と城下町、盛岡の近代化などのテーマと南部家資料を融合させることで、「歴史は面白い！」を実感するきっかけとなる展示」「歴史は奥深い！」を実感するきっかけとなる展示」を目指します。

これらの実現に向けては、それぞれの「基本方針」を定めて取り組みます。



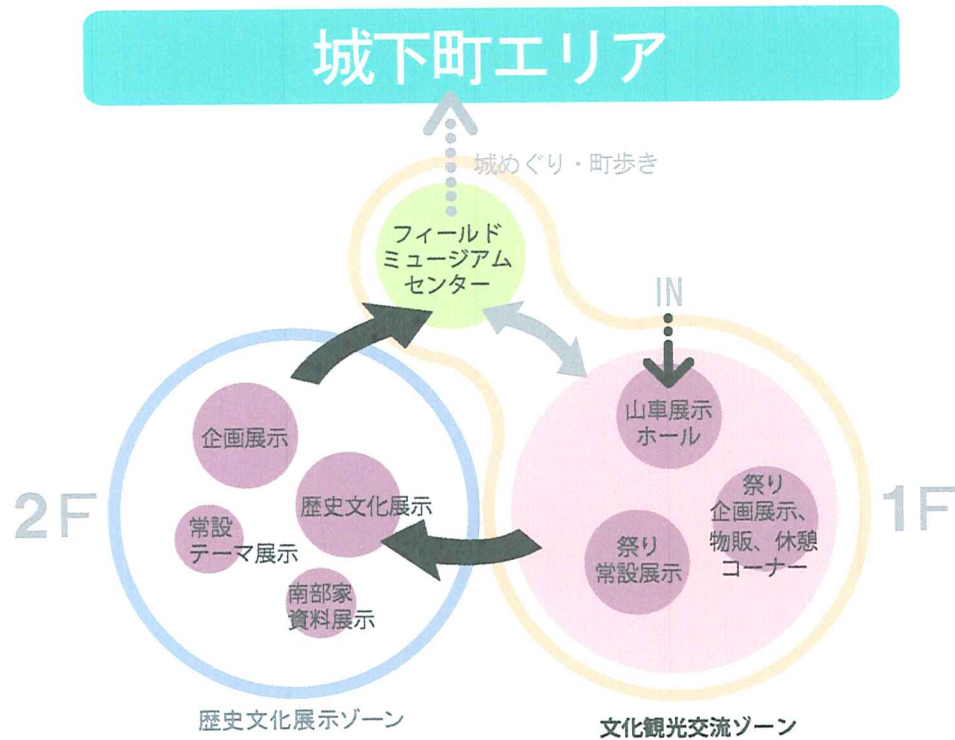
基本方針

- ・城下町そして都市もりおかの歴史をテーマに設定した展示を展開させます。
- ・資料を通して、その時代の人々の生活や動きが見えるような展示を目指します。
- ・国宝・重要文化財を企画展示できる環境を目指します。
- ・南部家資料やまちに伝えられてきた暮らし文化の価値を十分に引き出すような活用手法を検討します。
- ・観光客や子どもに配慮した展示・施設構成を目指すとともに多目的に活用できる施設設備を検討します。
- ・歴史のまちづくりなど、今日の盛岡の課題に呼応した展示を展開させます。

■展示の全体構成

施設全体の顔として、山車展示ホールで来館者を出迎え、1階は無料の文化観光交流ゾーンで祭りをテーマに構成し、2階は有料の歴史文化展示ゾーンによって構成します。

1階のフィールドミュージアムセンターを通して、城下町エリアとの積極的な連携を図っていく施設展開を目指します。



有料ゾーン

市民や盛岡を訪れた観光客が必ず足を運び、城下町盛岡の中に流れた様々な時間にタイムスリップできるようなスペースの実現を目指します。

無料ゾーン

祭りやイベントが通年体験できる機能や市街地散策のガイダンス機能等を充実させます。「まちなか観光」のスタートや締めくり等で利用することができる拠点を目指します。

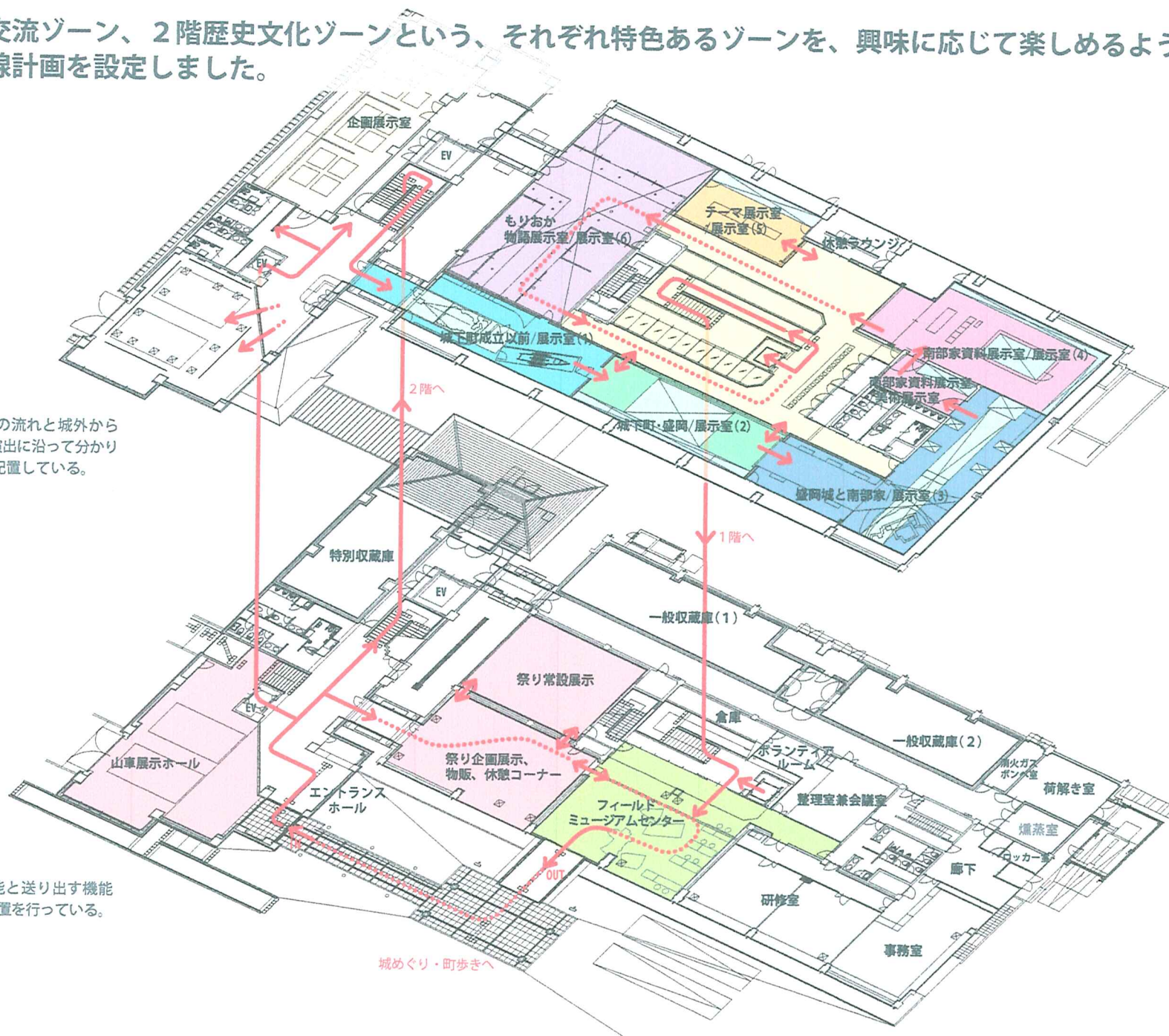
1階観光交流ゾーン、2階歴史文化ゾーンという、それぞれ特色あるゾーンを、興味に応じて楽しめるよう明確な動線計画を設定しました。

< 2F動線の特徴 >

ゆるやかな時間軸の流れと城外から城内へと巡る空間演出に沿って分かりやすく各展示室を配置している。

< 1F動線の特徴 >

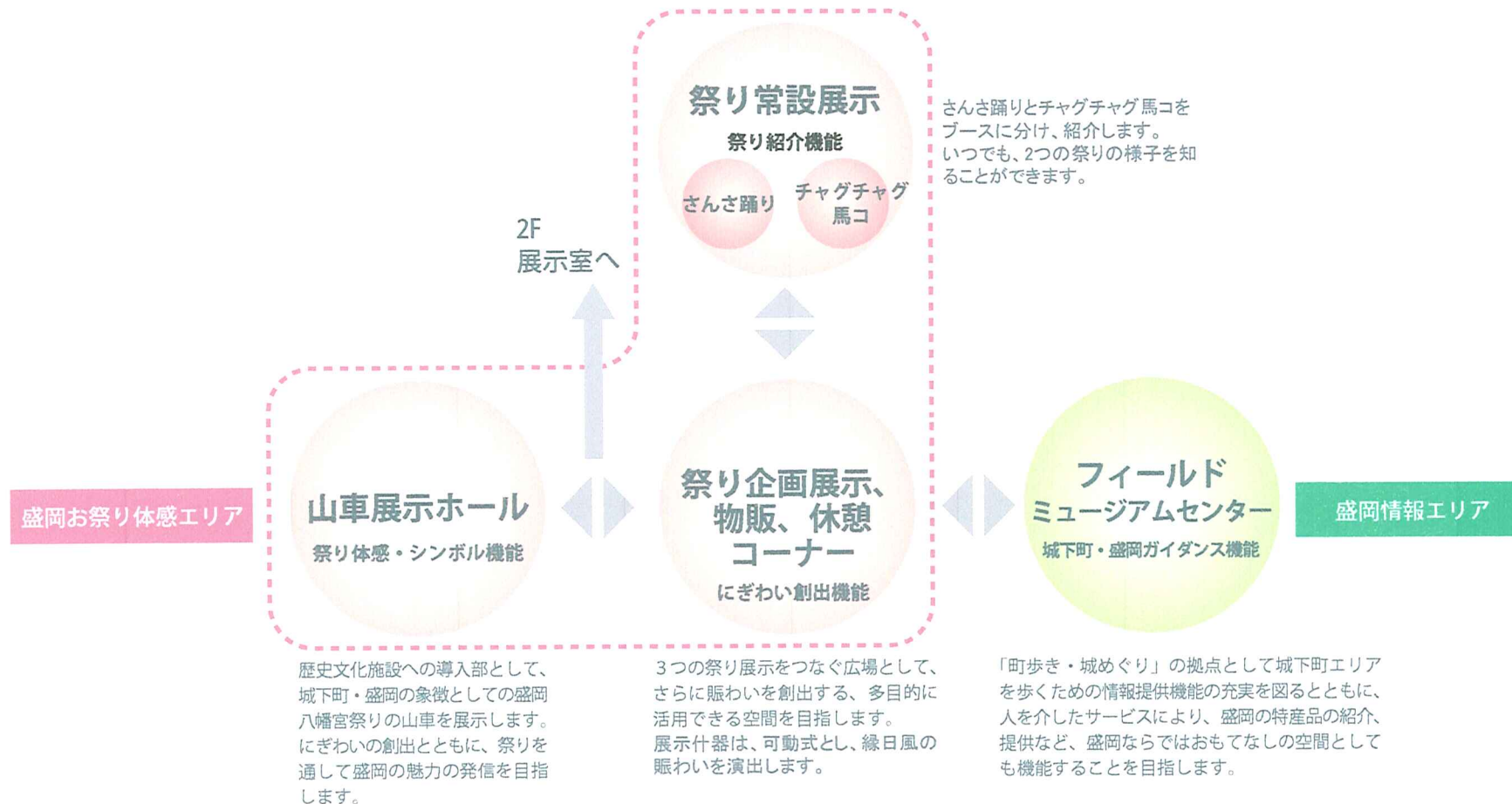
来館者を迎える機能と送り出す機能を両立させる諸室配置を行っている。



1階は、観光客や市民を迎える顔となり、交流を図り、町歩きを楽しむための4つのコーナーで構成します

歴史文化施設は、未来の盛岡市民のために歴史を継承する役割とともに集客観光や中心市街地の活性化に貢献することも重要な役割となります。特に1階は、歴史文化施設への導入を図る顔としての機能を果たすとともに、展示見学後、町歩きへと向かう出発点としての機能も担うことになります。

そこで、まず導入部としては、地域の歴史・文化への入口であり観光都市・盛岡の顔ともなることを考慮し、城下町・盛岡の伝統を伝える祭り、そのシンボルである山車展示によって訪れた人々を迎えます。さらに、町歩きの起点としてフィールドミュージアムセンターを設けることで、市民と協働し屋外へと広がる展示の実現を目指します。具体的には以下のような4つのコーナーでの展示を考えます。



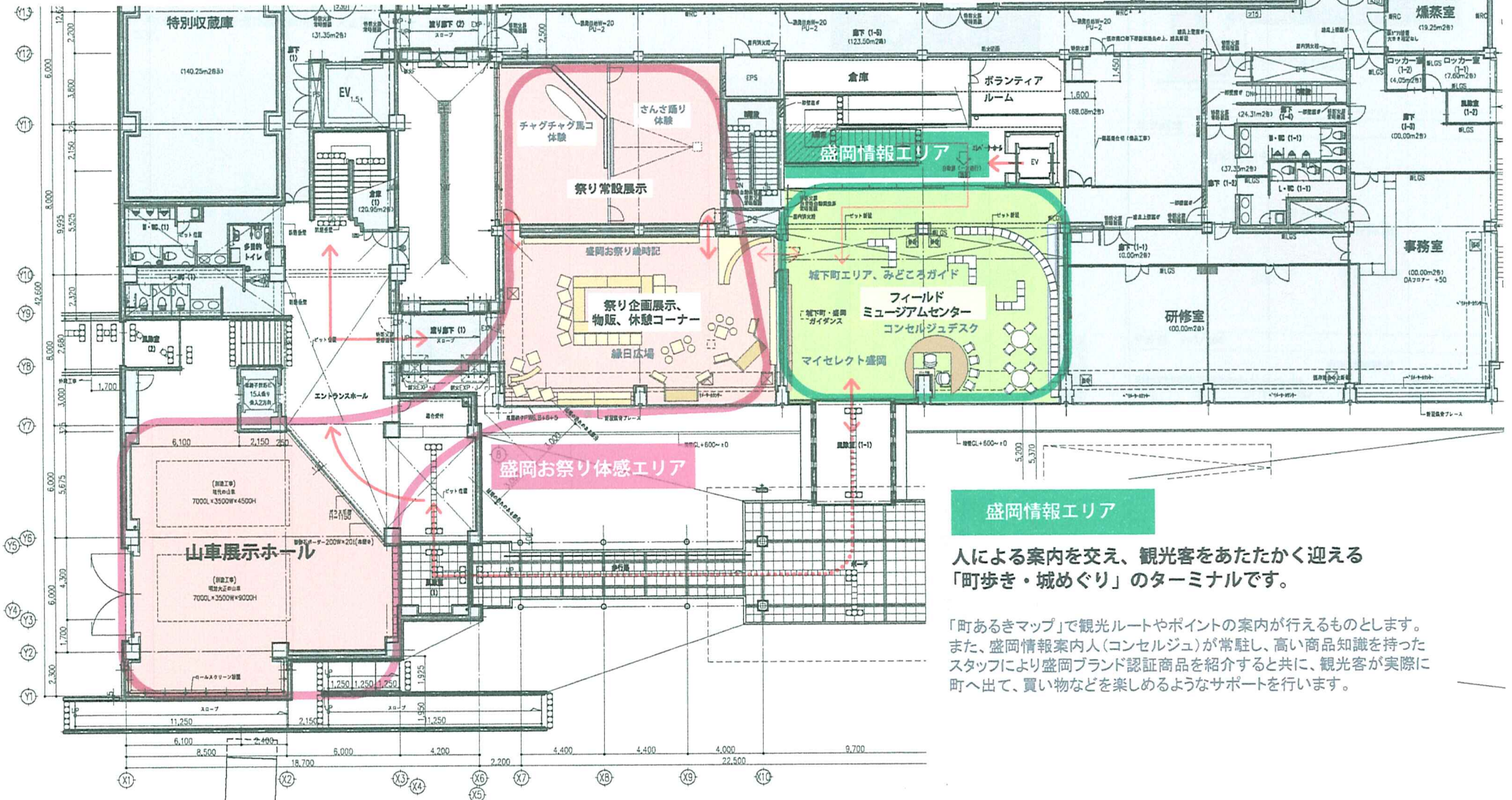
1階は、観光客や市民をあたたかく迎える2つのエリアで構成します。

盛岡お祭り体感エリア

「山車展示ホール」、「祭り企画展示」、「祭り常設展示、物販、休憩コーナー」の3つの展示コーナーで、盛岡の祭りがいつでも体感できる空間とします。

祭り常設展示では、「チャグチャグ馬コ」「さんさ踊り」の2つの祭りを紹介します。祭り企画展示、物販、休憩コーナーでは、この3つの祭りをつなぐ縁日広場として、祭りの縁日を彷彿させる賑わい空間に、駄菓子などの販売や、休憩コーナー、盛岡の祭りを紹介するパネルなどで構成します。

S=1/200



盛岡情報エリア

人による案内を交え、観光客をあたたかく迎える「町歩き・城めぐり」のターミナルです。

「町あるきマップ」で観光ルートやポイントの案内が行えるものとします。また、盛岡情報案内人(コンセルジュ)が常駐し、高い商品知識を持ったスタッフにより盛岡ブランド認証商品を紹介すると共に、観光客が実際に町へ出て、買い物などを楽しめるようなサポートを行います。

1F/祭り企画展示、物販、休憩コーナー

お祭りにちなんだ商品や特産商品など、盛岡の魅力を祭りの雰囲気の中で提供するおもてなし空間です。

祭り企画展示、物販、休憩コーナー

盛岡に来た旅の思い出やお土産として、あるいは施設来場の記念として、盛岡の特産商品の魅力を紹介するスペースです。購入に加え、飲食も可能なお祭り演出の空間として整備します。



販売商品イメージ：

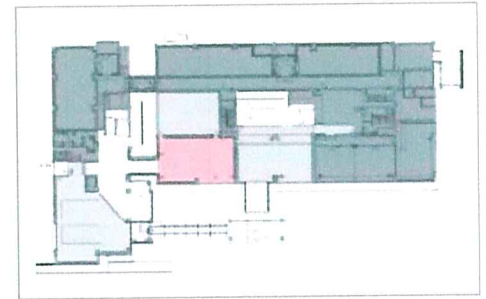
南部せんべいや盛岡駄菓子など、城下町の情緒や盛岡周辺の魅力を伝える商品構成を主とした提供を基本とします。



天井からは、装飾パナーや照明などが取り付けできるようなシステムを用意します。たとえば、さんき踊りの時には、衣裳をイメージした装飾パナーや祭りの様子を伝える装飾を取り付け、賑わいを演出することが可能です。



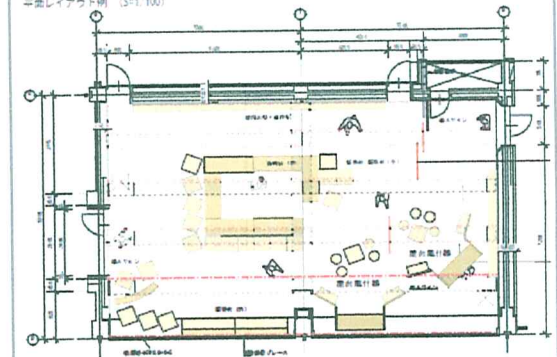
Key Plan



展示構成

備考

二重レイアウト例 (S=1:100)



1F / 祭り常設展示室

盛岡を代表する、初夏を彩る風物詩「チャグチャグ馬コ」、東北の夏の夜を熱くする、現代的なお祭り「さんさ踊り」の魅力に触れる体験空間です。

チャグチャグ馬コ体験展示

きらびやかな装束をまとった馬に稚児をのせ、15キロにわたる行進で約100頭が練り歩いていく伝統的なお祭りの雰囲気、映像と体験の2つの手法で、誰でも気軽にその魅力に触れることができるようにします。

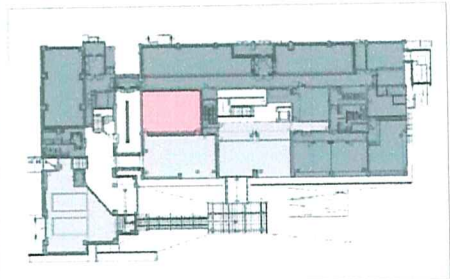


さんさ踊り体験展示

「魅せる祭り」であると同時に「参加する祭り」でもあることで、全国的にも知られた祭りの魅力を、映像と参加型体験の2つの手法で展開します。実際の祭りに参加してみたい、見てみたいという気持ちに導くような方向性を重視します。



Key Plan



展示構成

備考

盛岡お祭り万華鏡① 「チャグチャグ馬コ」映像コンテンツ案 (50インチモニター程度)

(約2分程度を想定) チャグチャグ馬コの体験空間です。チャグチャグ馬コを見ているような臨場感あふれる美しい映像で構成します。

■コンテンツ展開案

- シーン1：祭りの朝
チャグチャグ馬コに参加する一家の馬の飾りつけの様子からはじまる。
- シーン2：
滝沢村奥宮前神社出発。
装束を付け終えた馬の参拝から神社出発の様子を紹介。
- シーン3：
チャグチャグ馬コの歴史紹介。
- シーン4：
チャグチャグ馬コのルート紹介。



シーン5：チャグチャグ馬コが八幡宮に着くまでの情景を美しい景色とともに撮き出す。



盛岡お祭り万華鏡② 「さんさ踊り」映像コンテンツ案

(A案は2分程度、B案は5～10分程度を想定) さんさ踊りの中に飛び込んだような体験空間です。さんさ踊りのにぎやかさを再現できる映像を複数メニュー用意して、観光客がいつでも祭りの魅力に触れることができるようにしています。

■コンテンツ展開 A案 (ドキュメントタッチの展開)

- ・祭りの臨場感を重視した演出案
- ・さんさ踊りのパレードに参加する市員の子供のいそいそとした表情を中心に、さんさ踊りのその日をドキュメンタリーとして自分も参加しているような臨場感を演出していきます。

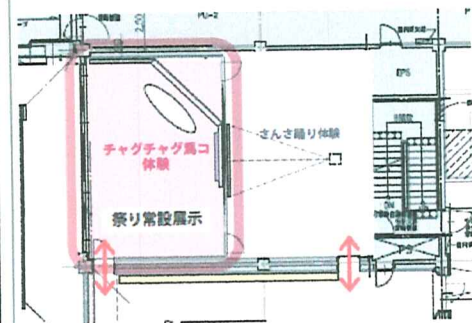
- シーン1：さんさ踊りのはじまる前
さんさ踊りの衣装をまとい、集合する市員。ミスさんさや、ミス火鼓など華やかなメンバーに祭りへの思いを語ってもらう。
- シーン2：いざ、パレード開始。
華やかにパレードが始まる。
- シーン3：主要な団体の紹介
お祭りに参加する子供から学校や会社まで、さまざまなグループがそれぞれ思いで参加している様子を伝える。
- シーン4：さんさ踊りフィナーレ
すっかり夜となったパレードの最後を見送り、祭りの興奮を収めたまま映像はフィナーレを迎える。



■コンテンツ展開 B案 (さんさ踊りと太鼓の体験の展開)

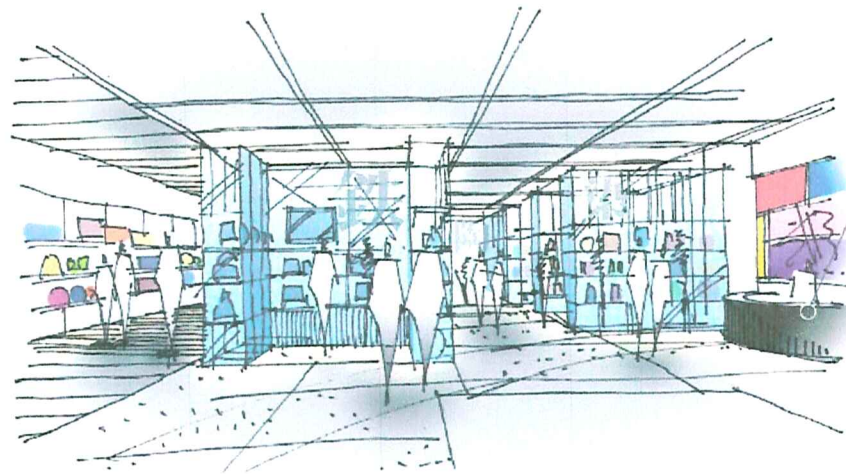
- ・祭りの参加体験を重視した演出案
- ・園内の先生の指導に従って、来訪者も身振り手振りして踊ってみることができる『さんさ踊り体験映像』です。太鼓バージョンも考えられます。

- シーン1：さんさ踊りの先生紹介
「さあ、皆さんもやってみましょう！」
- シーン2～9：踊り方解説
- シーン10：いざ、踊りの団体の中へ
パレードの映像に併せて踊っていきます。



人による案内を交えながら、 観光客をあたたかく迎える「町歩き・城めぐり」のターミナルです。

「町あるきマップ」で観光ルートやポイントの案内が行えるものとします。また、盛岡情報案内人(コンセルジュ)が常駐し、高い商品知識を持ったスタッフにより盛岡ブランド認証商品を紹介するとともに、観光客が実際に町へ出て、買い物などを楽しめるようなサポートを行います。



コンセルジュデスク

盛岡の観光情報を案内するインフォメーションカウンター。ボランティア等、人員配置を前提とすることで、人を介したサポート機能の充実を図るとともに、情報ボードなどを活用したリアルタイムでの情報提供も充実し、観光都市・盛岡としてのおもてなしの心を表現します。



町あるきマップ

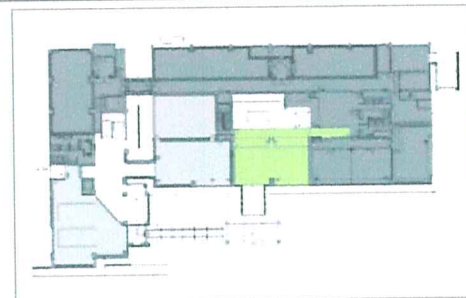
盛岡を楽しむ多様な散策ルートの紹介を目指します。NPO、市民団体などとの協働・連携により、さまざまなコースを開発し反映して行くことが考えられます。観光客が持ち歩きやすいよう、大きさを統一したカード形式のコースカイトを作成し、展示・提供を図ります。



マイセレクト盛岡 (もりおかブランド飲食・物販ガイド +歩いて楽しむミュージアム)

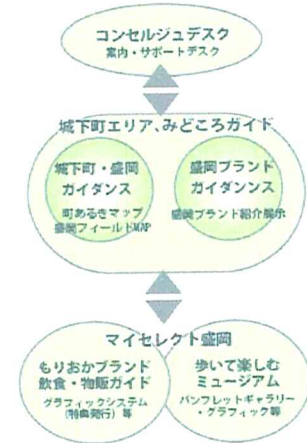
名刺型カードに大きさを統一した観光ガイドを壁面システムとして展開。利用者が自分に必要な情報だけをセレクトして、すぐさま専用の特性ファイル(有料)に転写して持ち帰ることが出来ます。

Key Plan

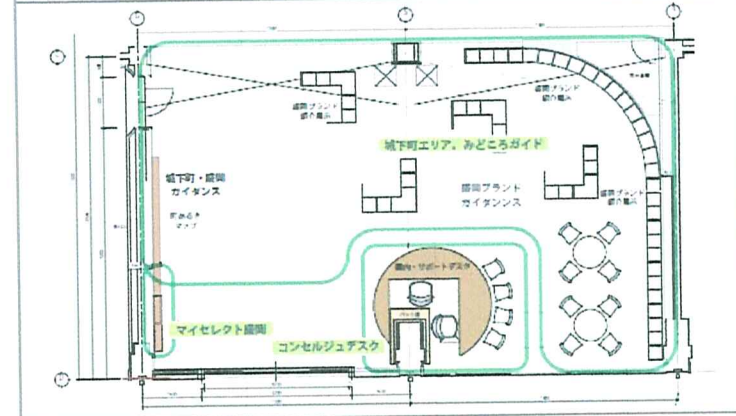


展示構成

フィールドミュージアムセンター



備考



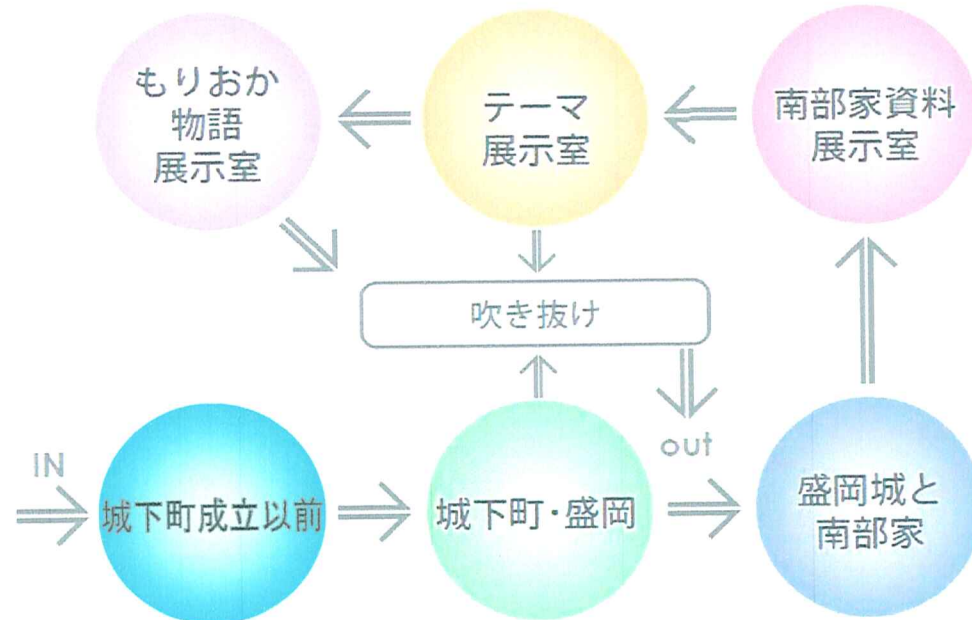
2Fは、城下町のルーツを探り、盛岡の歴史や文化を探求する6つのコーナーで構成します

盛岡の魅力は、大地の豊かさや城下町としての都市整備、そしてそこに花開いた文化にあります。このような観点から、「城下町・盛岡」、「盛岡城と南部家」など様々なテーマによる6つのコーナーで展示を展開します。

藩政時代の町並みを再現し、その空間の中で盛岡藩政後半から明治初頭までの紹介や、映像シアターなどを実施します。今日につながる盛岡について、楽しみながら学ぶ場とし、歴史展示のエンディングに位置づけます。

盛岡藩や南部家に関する実物資料を中心に、様々なテーマを設定して、資料の持つ意味を効果的に表現していく空間とします。

南部家資料の魅力や、美術的な価値や側面からスポットをあてて紹介します。名宝の持つ輝きや個々の美に加え、近世大名であり藩主であった南部家の持つ美意識に出会う、豊かな時間・空間を提供するために展示環境を整えます。



盛岡の歴史を語る上で、その背景となる自然風土の豊かさや地勢の利、そこから生み出された基層文化を示します。その上で、広大な藩領、その中心に展開された城づくりの必然性を明らかにし、舟橋と惣門を経て来訪者を城下に誘います。

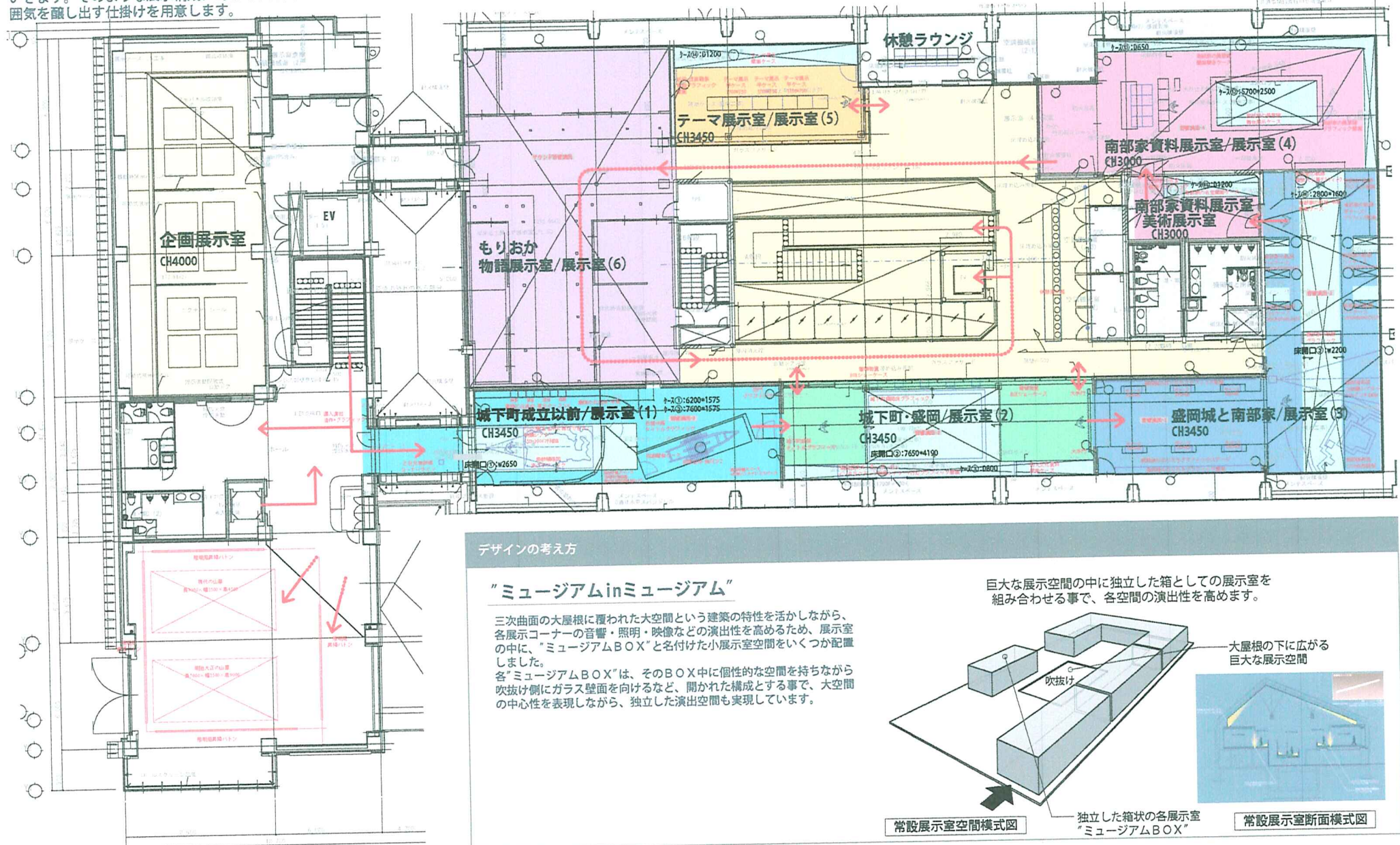
主要な街道の結節点、舟運の起点として栄えた城下の繁栄ぶりを、城下に集積した豊かな産物、惣勤交代をはじめ街道を行き交った人々、そしていきいきと生活する民衆の姿に着目して描きます。

城下から城内に至る場への「情報」のつながりとして、東北三大名城とつたわれた盛岡城を紹介し、そして、歴代藩主が迎えるという最大のおもてなし演出の中に盛岡藩の基本的な情報を加えることで、実物資料を見るための予備的な知識の提供も行います。

建築空間の個性を活かし、歴史ドラマを体感させる【劇場空間】を実現します。

S=1/200

基本動線は、建築の特色である回廊空間を一筆書きでめぐりながら、来館者は、大きな時間軸の流れに沿いながら、テーマごとに設定された空間をめぐっていきます。そのような展示構成に対して、雰囲気のある音響演出やドラマチックな照明演出、歴史場面のセリフのようなタイトルコピーなど、随所に時代の雰囲気を感じ出す仕掛けを用意します。

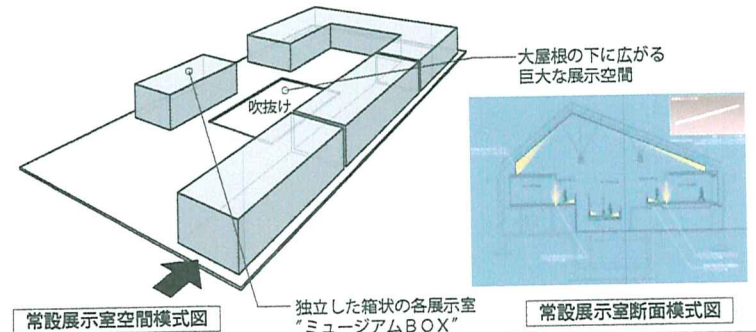


デザインの考え方

“ミュージアムinミュージアム”

三次曲面の大屋根に覆われた大空間という建築の特性を活かしながら、各展示コーナーの音響・照明・映像などの演出性を高めるため、展示室の中に、“ミュージアムBOX”と名付けた小展示室空間をいくつか配置しました。各“ミュージアムBOX”は、そのBOX中に個性的な空間を持ちながら吹抜け側にガラス壁面を向けるなど、開かれた構成とする事で、大空間の中心性を表現しながら、独立した演出空間も実現しています。

巨大な展示空間の中に独立した箱としての展示室を組み合わせる事で、各空間の演出性を高めます。



常設展示室空間模式図

常設展示室断面模式図

豊饒なる北東北の豊かさと美しき自然が、 城下町に向かう旅人 (= 来館者) を歴史ドラマの世界へと誘います。

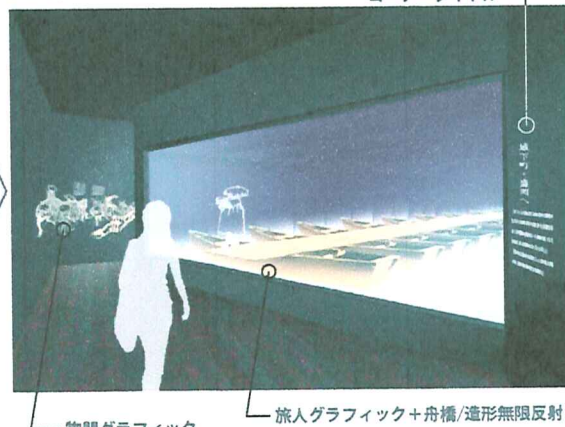
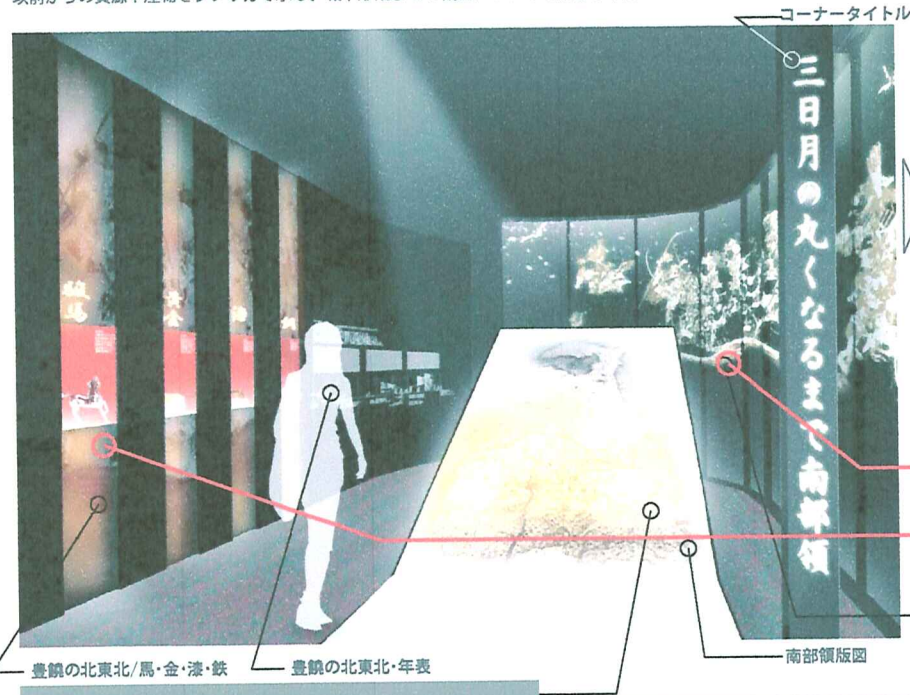
歴史回廊のプロローグとして、北東北の地に広がる豊かな自然風土、地勢の利、そこから生み出された基底文化など、盛岡藩へとつながる豊かさ広大さを示すとともに、藩政前史をダイジェストで見られる場とします。通路状の空間特性を活かし、時間軸の流れとともに、空間的にも城下町へと入る道を演出することで、城下町・盛岡コーナーへの期待感を高めます。

三日月の丸くなるまで南部領

盛岡藩の版図を描き出し、見る人に一目でその広大さを感じ取ってもらうとともに、その豊かな大地から生まれた藩政以前からの資源や産物をレプリカで示し、城下町形成までの概要についても絵巻や年表グラフィックによって紹介します。

盛岡の玄関舟橋

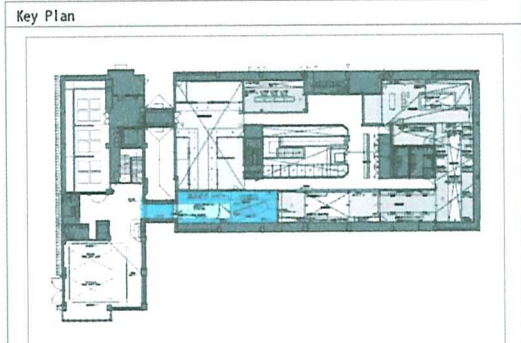
実際の城下町においても、奥州街道に沿って北上川を渡り城下へと入る入口となっていた舟橋の演出により、城下町・盛岡コーナーへと来館者を誘います。



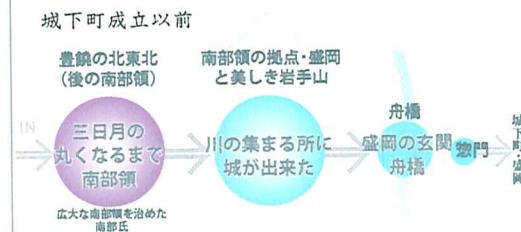
物産関係・絵巻の方向で検討中。

「朱印状」など実物資料の方向で検討中。

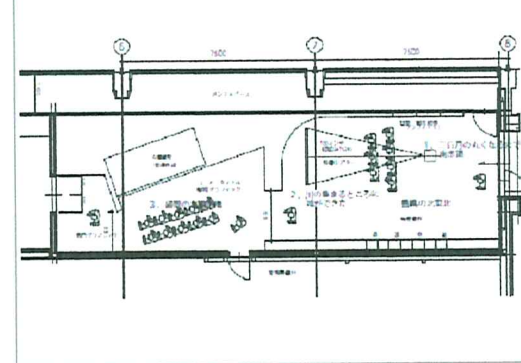
川の集まる所に城が出来た



展示構成

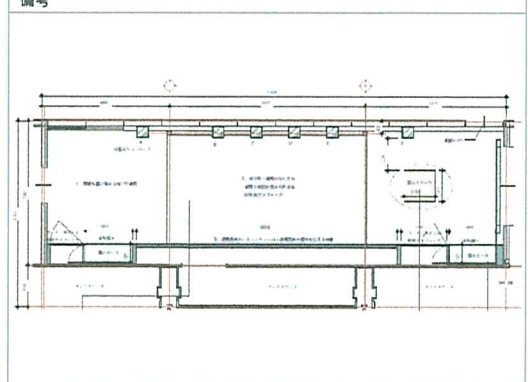
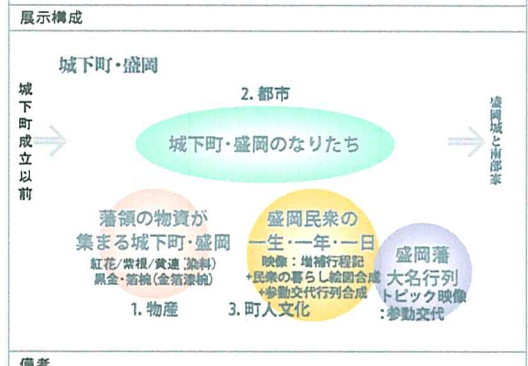
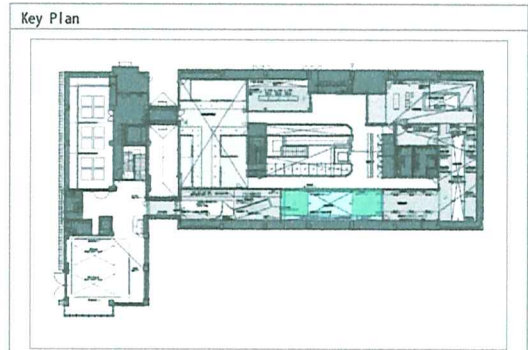
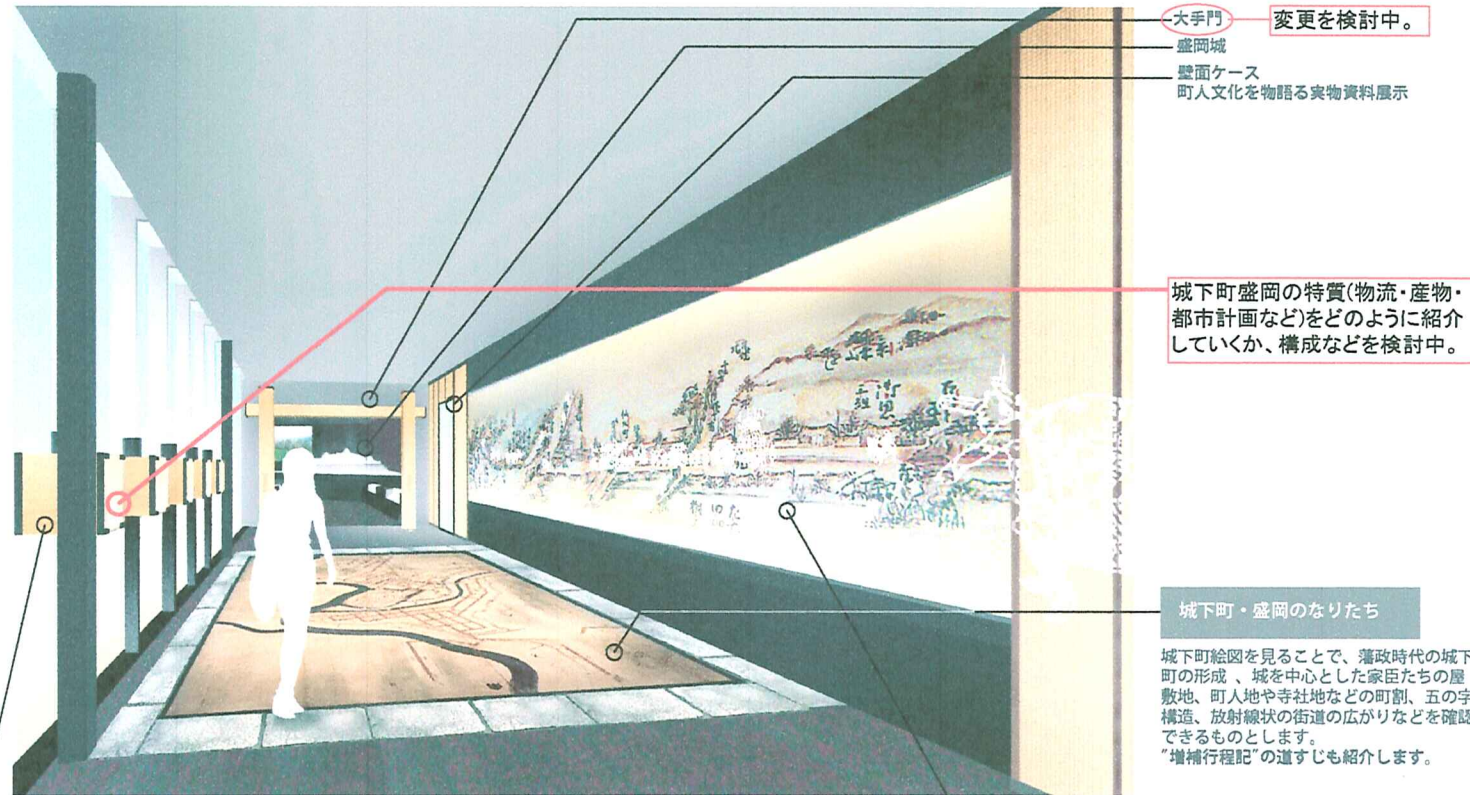


備考



経済の発展、都市基盤の整備の進展によって、盛岡の城下に花開いた豊かな町人文化。その担い手である民衆の息吹をいきいきと伝えます。

「城下町・盛岡」コーナーでは、城下町の成立とともに、主要な街道の結節点、また北上川舟運の起点として発展した盛岡の繁栄と人々の姿に焦点を当てて紹介します。当時の城下や街道を描いた絵図とともに、双方向で楽しめる映像を組み合わせ、来館者の興味を引き付ける情報提供を目指します。



藩領の物資が集まる城下町・盛岡

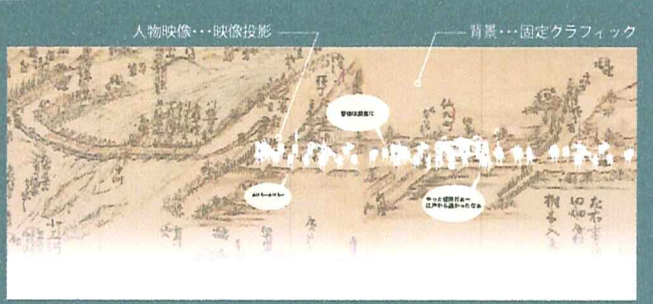
盛岡城下繁栄の証として、領内各地から集積した南部の特産品、主要な交易品などについてレプリカをショーケース風に展示し紹介します。



盛岡民衆の一生・一年・一日+盛岡藩大名行列

壁面に描かれた絵巻(増補行程記)をベースに、当時の町並を行き交った人々の姿を映像で映し出します。日常の庶民の姿、季節の行事や参勤交代の大名行列など、北奥の中心、城下町・盛岡ならではのさまざまな場面や人々の営みを見ることができるものとします。

- Story 1...盛岡民衆のある一日 盛岡八幡宮参りなど
- Story 2...参勤交代前日 準備が大変
- Story 3...参勤交代当日 盛岡藩の大名行列



東北地方を代表する名城、よみがえる盛岡城の雄姿。 そして、歴代藩主の群像が、重代の至宝へと来館者を導きます。

盛岡城の再現模型を中心に、東北三大名城の一つとうたわれた盛岡城のなりたちについて解説します。また、それぞれのゆかりの品を通して歴代藩主について紹介し、盛岡城と南部家の歴史の全体像を概観できるものとします。

盛岡城のなりたち

現在は石垣のみが残る盛岡城について、本丸部分を模型として再現するとともに、CG映像により、さまざまな角度・視点から城の全体像を再現し紹介します。また、詳細な情報についても、グラフィック及び実物展示により解説を施します。



盛岡城再現CG
盛岡のなりたち
平ガラスケース
盛岡のなりたち
壁面グラフィック

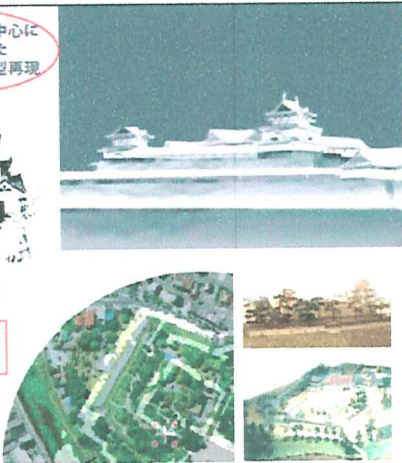
盛岡城再現模型（縮尺1:50）

盛岡城本丸周辺を中心に
城下町から見上げた
盛岡城の雄姿を模型再現



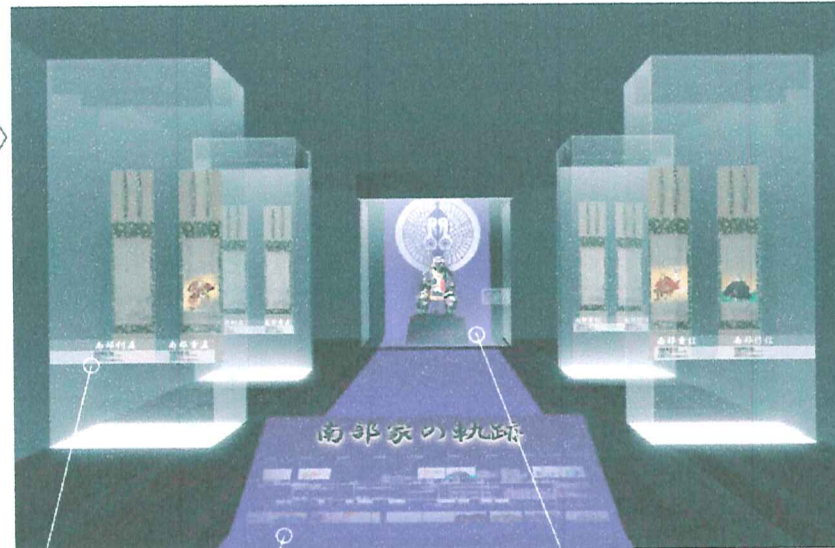
3層天守櫓の高さ
1/50縮尺で高さ42cm
(例・修善寺城)

城内模型への変更を検討中。



南部家の軌跡

画像、甲冑、印章など藩政時代の南部家各当主の関係品を展示し、それぞれの藩主の事跡の紹介を通して南部家の歩みをたどることで、盛岡藩の歴史を感じられるものとします。



ウォールケース
歴代資料
(掛け軸肖像)
コーナータイトル
+ 南部家の軌跡
壁面ガラスケース
藩主所用甲冑+家紋入り幕
盛岡藩主の象徴として

展示資料

藩主の肖像と印章



南部信直肖像

南部利直肖像

南部利直果甲

藩主連の武具



南部定頼旗
陣羽織

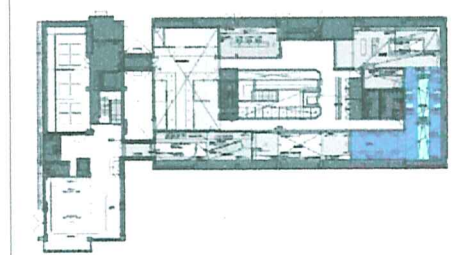
金目輪文袴
陣羽織

金漆地刺先
向馬鞍陣笠

采配

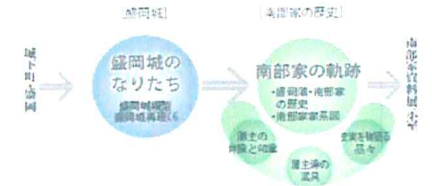
※展示資料については想定

Key Plan

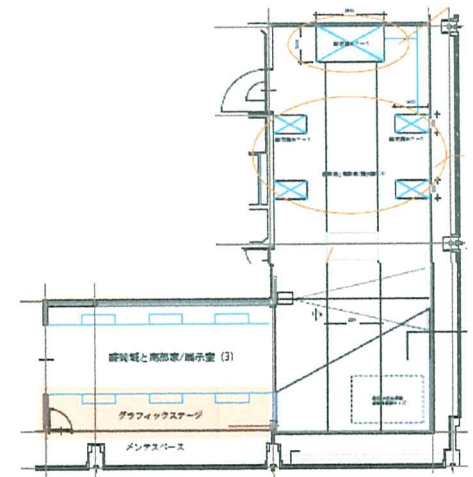


展示構成

盛岡城と南部家



備考

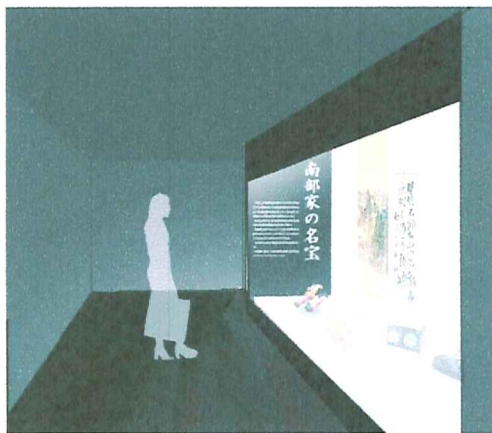


数百年の時を越えて、南部家の名宝に出会える場所。 その美意識と雅の世界に浸る喜びを、重厚かつ彩り豊かに演出します。

当コーナーでは、歴史資料として、また文化財として重要な南部家資料について、美術的な側面からスポットを当てて紹介します。名宝の個々の美とともに、南部家の美意識に出会う、豊かな時間・空間を提供することを主眼に展示環境を整えます。

南部家の名宝

南部家資料の名品をそれぞれじっくりと鑑賞できる空間づくりに努めます。



展示資料

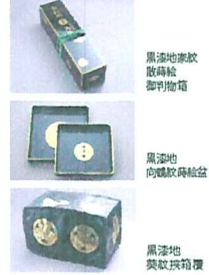
衣裳の美



書画の美



漆器の美



その他



※展示資料については想定

南部家の美意識

展示資料を組み合せ、例えば大名の仕事の場、南部家に嫁いだ姫（奥方）の部屋など、テーマに応じて資料が使われていた情景を再構成して見せることで、資料の背景にある美意識を表現することが出来ます。そのため、演具も情景に溶け込むよう工夫し、資料の織りなす美の世界を最大限に引き出せるよう配慮します。



壁面覗き型ケース

歴史舞台展示三面ガラス大型ケース + コーナータイトル

展示資料

南部相撰



大名と箱巻



大名の書院



南部家の女性たち

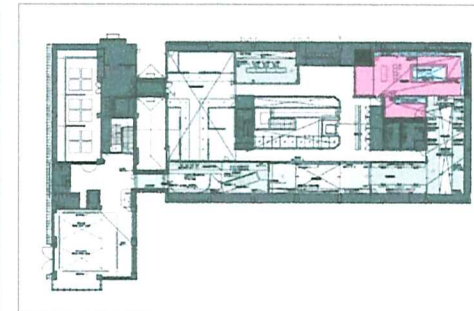


※展示資料については想定

歴史舞台展示展開事例

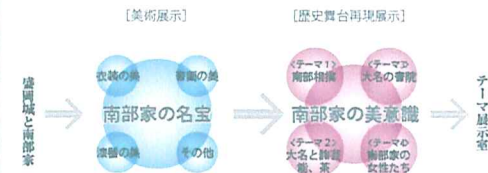


Key Plan

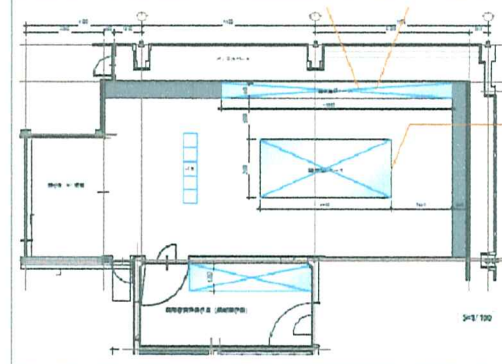


展示構成

南部家資料展示室



備考



テーマ展示室 / 展示室 (5)

盛岡藩に連なる様々なサブストーリーを テーマ別に紹介します。

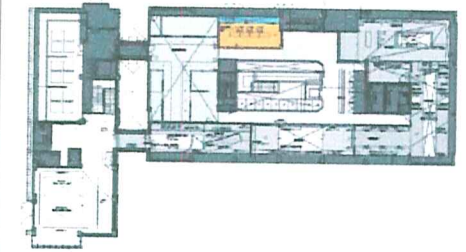
「南部家資料展示室」の近世の世界から「盛岡物語展示室」へ間に位置するテーマ展示室では、藩政時代の盛岡藩に関連する多様なテーマを設定していくものとします。例えば、幕末から近代の南部家に関する貴重な品を活用した、他施設ではあまり取り上げられていない近代における旧大家の物語、美術工芸的な資料を活用した個別のテーマ展開などが想定可能です。こうした観点から、盛岡藩や南部家に連なるテーマを選択して、資料の持つ意味を効果的に表現していく空間とします。

テーマ展示室 / 展示室 (5)

ウォールケース



Key Plan

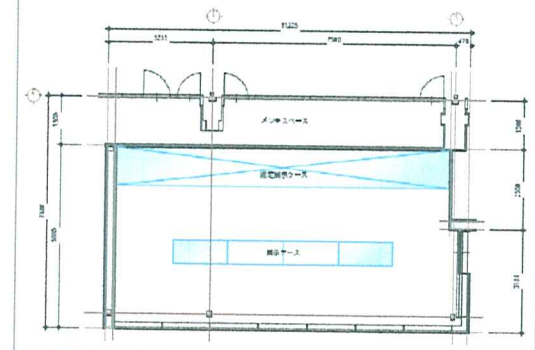


展示構成

テーマ展示室

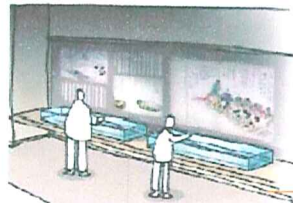


備考



藩政時代の町家再現の中で、現代の盛岡につながる展示を展開します。

盛岡の歴史の中で、今日につながる部分をより知ってもらうためには、盛岡藩政後半から明治初頭までを掘り下げていく必要があります。ロシア船の根室入港による蝦夷地警備や20万石への加増、藩財政への影響、藩政の終焉と明治維新、岩手県の成立など、藩政から明治へと近代への歩みとともに、この時期には藩校を中心に優れた技術が育まれ、活躍する多くの人材を輩出しており、領民の動向なども織り交ぜながら紹介します。情報の展開では、江戸時代以降の近代化の動向をも紹介するものとし、盛岡人の知恵や盛岡らしさを身近に楽しく感じながら、盛岡のルーツを探る旅を演出し、町なかに出て行くきっかけの一つとします。



近代への予兆(2)
幕末から明治初期に焦点をあて、
幕政時代の終焉を再現



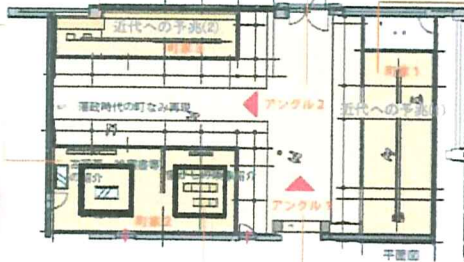
近代への予兆(1)
藩政から明治へと近代への歩みととも
に、領民の動向なども織り交ぜなが
ら紹介します。



アンタール2
藩政時代の町家再現
藩政時代(江戸後期)の町家(木造・瓦葺き)をファサードのみ再現する。
ファサード内部は展示コーナーとする

出陣書、結城巻等の紹介

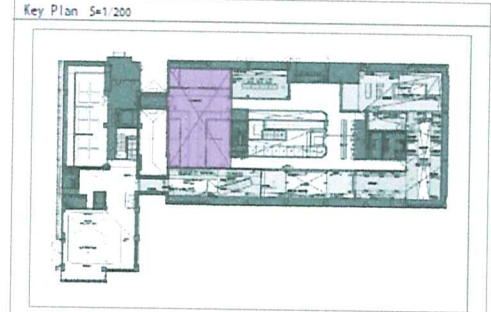
想い出の街角や人々を撮影した写真
集や軍書帖、懐かしの観光図はがき
などを展示し、写真ギャラリーとし
ての展開



懐かしい陣巻紹介
大正期の盛岡・岩手を撮影した「LIGHT OF INATE」岩手の輝き、雪を上映、
ミニシアター空間としての展開を図ることで、盛岡に移入された
新しい文化や近代化の息吹を感じられるものとなります



アンタール1
藩政時代の町家再現



展示構成



備考

